

ハーモニー

Harmony

第55号 2011年6月17日発行
日本養護教諭教育学会

Japanese Association of Yogo Teacher Education

日本養護教諭教育学会

事務局：〒448-8542

刈谷市井ヶ谷町広沢1

愛知教育大学養護教育講座
後藤研究室

TEL&FAX 0566-26-2491

振替口座：00880-8-86414

<http://www.yogokyoyu-kyoiku-gakkai.jp>

目次

2011年度の学会事業について……………1	2011年度 研究助成金研究の経過報告……………6
「養護教諭の専門領域に関する用語の解説集」	2012年度「研究助成金研究」の募集と第19回
改定作業の進捗状況について……………2	学会誌第15巻第2号投稿原稿の募集……………6
第19回学会集會へのお誘い&ご案内	日本養護教諭教育学会役員選出のための名簿登録の
一第2報……………3	確認について(選挙管理委員会)……………7
トピックス：養護教諭と「生徒指導提要」・「生徒指導	選挙有権者・被選挙権者の名簿(案)……………8
の役割連携の推進に向けて」—確認と活用を— ……4	理事会等の活動報告……………12
私の県の「ここが特色」①……………5	事務局より、編集後記……………12
「私の実践と研究」リレー・レポート④……………5	

●2011年度の学会事業について

理事長 後藤ひとみ(愛知教育大学)

東日本大震災から3ヶ月余りが経過しました。復興への課題は未だ山積しており、被災された皆様にご心より哀悼の意とお見舞いを申し上げます。

本会は、3月15日に学会HPにお見舞いの言葉を掲載し、「被災を経験した子どもたちにかかわる養護教諭の方々への役立ち情報」というコーナーを開設しました。その後、このコーナーに掲載すべき情報があれば教えていただきたい旨を学会誌送付の際に会員の皆様にお願いました。現在も、「役立ち情報」を募集していますので、是非、事務局までお寄せ下さい。

また、3月末の学会誌発送では、岩手・宮城・福島と、茨城県および千葉県の一部地区について送付を遅らせることにしました。3週間後の送付時には、出版社office2のご了解を得て作成した、新潟県養護教員研究協議会編「学校危機管理—新潟県中越大地震に学ぶ 地震が起きた！その時、学校は、保健室は？！—養護教諭の対応と保健室の役割」(2008)の一部を複写した冊子や学会HPに掲載しているサイト情報などの資料を同封させていただきました。しかしながら、返送によって未だお届けできていない方がいらっしゃいます。このような状況のなか、今年は理事選挙がありますので、2010年度会費が未納であった方が期日までに会費納入が出来ずに選挙権や被選挙権を失うことが懸念されました。しかし、被災地の会員の大半は期日に遅れることなく会費を納入していたこと、該当地区に限って納入期限を延長したことで無事に選挙用の名簿を作成することができました。

改めて、皆様のご健康をお祈りするとともに、今回の

ハーモニー等が間違いなく届くことを願うしだいです。

さて、第V期理事会も3年目を迎え、これまでの活動を仕上げながら次期の活動へとつなぐ年となりました。今年度の学会事業は2010年度総会でご承認いただいたように、①第19回学会集會の開催、②学会助成金対象研究および投稿奨励研究の選定、③学会誌第15巻第1号・第2号の発刊、④機関紙ハーモニー(第55号～第57号)の発行、⑤倫理委員会の設置に関する検討、⑥学会活動委員会の活動の充実(用語の検討、現代的課題の検討)、⑦学会設立20周年記念事業の計画、⑧広報活動および他機関との情報交換、⑨理事選挙の実施、⑩会員名簿の発行です。

昨年のハーモニー第52号でも述べたように、第V期が取り組むべき課題は、「会員拡大」「学術的な研究成果の蓄積」「学会誌の年2回発刊」「養護教諭に関する情報のネットワーク化」です。

特に、「学会誌の年2回発刊」は、数年がかりの検討によって実現することになりました。これによって、学会誌が軽量となれば、郵便料金がおさえられるため、「学術刊行物」としての発送も可能となります。

「投稿奨励研究」は本会独自の学術活動として昨年より立ち上げることができたものです。選定方法や学会誌投稿の時期などについての検討を重ね、投稿の支援を行う体制づくりを進めていきたいと思っております。

社会的な活動としては、インターネット上の情報などに注目して、養護教諭に関する誤った内容を学術的な立場からは是正すること、公開活動としては学会の宣伝を積極的に行うことも必要です。

上記事業の実現を目指して、4月24日開催の常任理事会では下記事項を「2011年度事業における重点活動」として取り組むことを確認しました。

- 1) 科学研究費の分野等における養護教諭関係分野の提示に関する要望…昨年度提出した要望の扱いについて情報収集を行い、要望実現にむけて努力する。
- 2) 文部科学省教職員課への学会宣伝と養護教諭に関する要望の提出…すでに3月に理事長と学会誌編集担当常任理事が教員免許企画室長に面談して、学会宣伝と養護教諭の養成や研修にかかわる課題を提示してきた。今後の学会内での協議を受けて、必要な要望を提出していきたい。
- 3) 学術集会における養護教諭教育の分野提示…養護教諭の専門性を支える学問の体系化にむけて、学会発表のテーマを養護教諭教育の分野として表示する取り組みを進めていきたい。節目の第20回で一定の提案を行う予定であり、第19回では試行的に取り組んでいただく。
- 4) HPに相談コーナーをアップする。名称は、例えば“学会発表抄録の書き方、学会誌投稿原稿の書き方教えます”のように考えている。相談役や指導者には退職された論文作成経験者や元理事、元編集委員をお願いする予定であり、これらの方々による人材バンクづくりを進める。
- 5) 過去の学会誌（残部なしの巻）のHPへのアップ…残部なしのため入手できない学会誌はPDFにてアップしたいが、学術著作権協会との取り決めがあるため、契約内容を確認しながら進めていきたい。
- 6) HPの大幅なリニューアル…新しいコーナーづくりを受けて調整していく。
- 7) 補正予算案作成…年会費値上げの前に、学会誌販売などに努力したので、これらを収入に取り込むなどの補正予算を組みたい。
- 8) 規定の改定…2回目の選挙や種々の学会活動を通して見えてくるであろう規定の問題があれば、整備したい。

2012年度は20周年記念事業があり、その一環として「養護教諭の専門領域に関する用語の解説集<第二版>」発行にむけた検討が進められています。理事選挙に加えて、会員名簿の作成・配付もあり、様々な取り組みが求められる一年ですが、会員の皆様におかれましては、今後ともご支援・ご協力の程をお願い申し上げます。



「養護教諭の専門領域に関する用語の解説集」改定作業の進捗状況について

永田智恵子（学会活動担当理事）

今年1月の理事会において、三木とみ子学会活動担当常任理事から「養護教諭の専門領域に関する用語の解説集」改定にむけたワーキングの骨子が提案されました。そして、同3月に学会活動委員会を開催し、改定作業のスケジュール確認やワーキングメンバーの選定を行い、同4月に第1回ワーキンググループ会合を開催しました。理事会、学会活動委員会、改定ワーキンググループでの話し合いを経て、以下の点について共通理解して進めています。

1 解説集改定の趣旨

「解説集<第一版>」の発行以降、中央教育審議会答申や学校保健法の改正などにより学校教育や学校保健活動が大きく変化したことを踏まえ、2010年4月に会員を対象に解説集の見直しに関するアンケートを実施した。結果をもとに、時代に応じた内容に改定することにより、養護教諭の研究活動や実践活動に、さらに有効に活用されることをねらいとする。

2 改定の基本方針

- (1) 改正された法律や審議会答申等と関連させた内容にする。
- (2) <第一版>の「まえがき」にある「3. 編集における留意点」(①用語の抽出、②表記、③30語の掲載順について)をふまえる。
- (3) 会員対象に行ったアンケートの結果や学術集会のプレコンGRESSで収集した意見を参考にする。
- (4) 改定版であることに留意し、文字や文章の修正を丁寧に行う。

3 ワーキンググループの役割

ワーキンググループのメンバーは、用語の解説内容等のたたき台を提案するという役割を担う。この提案は、理事会の議を経て成案とする。

- (1) ワーキンググループメンバーとして「解説集<第一版>」の編集にかかわった人を中心に依頼する。
- (2) 学会活動担当の理事は、改定ワーキンググループのメンバーとなる。
- (3) 現理事の任期は2012年3月末であるが、2012年9月に予定している<第二版>の印刷・配付まではワーキンググループメンバーとしての責任を持つ。

4 掲載する用語

「アセスメント」は「ヘルスアセスメント」に変更し、「ヘルスプロモーション」の次に掲載する予定である。また、新たに「保健指導」と「健康相談」を追加する。

以上、「解説集<第二版>」が学会員の研究活動や実践活動に有効に活用されることを願って、改定作業が進んでいることを報告いたします。

教諭の役割に大きな期待が寄せられました。これらについて話し合い、議論し、その結果、明日の養護教諭の役割を整理する機会とします。

トピックス

養護教諭と『生徒指導提要』 「生徒指導の役割連携の推進に向けて」 ―確認と活用―

徳山美智子（渉外担当理事）

従来の生徒指導の指針であった「生徒指導の手引き（改訂版）」が30年ぶりに全面改定され、文部科学省から『生徒指導提要』として全国の学校等に配布されて1年が経過しました。

生徒指導は、保健・安全指導と同様に、学校がその教育目標を達成するための重要な機能の一つであり、子どもの人格の形成を図る上で大きな役割を担っています。しかし、これまで、小学校段階から高等学校段階までの生徒指導の理論・考え方や実際の指導方法等について、時代の変化に即して網羅的にまとめた基本書が存在せず、生徒指導の組織的・体系的な取組が必ずしも十分に進んでいないことが指摘されていました。

この「生徒指導提要」は、これらの指摘に応え、学校・教職員向けの基本書として、養護教諭も構成員となり編集作業が進められてきたものです。

ここで「生徒指導提要」に新たに記述された養護教諭に関連した箇所を挙げてみます。

○養護教諭が教育相談的役割を果たすために必要な留意点

①保健室で抱え込まずに学級担任・ホームルーム担任等と連携する。②教職員や管理職と日ごろからコミュニケーションをよく図る。③校内へ定期的な活動報告を行う。④養護教諭の教育相談的役割や児童生徒が保健室を利用した場合の養護教諭と学級担任・ホームルーム担任の連絡の在り方等について共通理解を図る。⑤職員会議で養護教諭からの報告の機会を確保する。⑥校内研修会で保健室からの事例を取り上げる。⑦学校行事や学年行事に養護教諭の参加と役割を位置付ける。⑧教育相談の校内組織に養護教諭を位置付ける。

○個別事案に応じたチーム支援における調整役

専門的な知識、スキル、経験等を有する生徒指導主事、管理職や養護教諭が務める。

○問題行動を起こした生徒への効果的な指導

問題行動の迅速な事実確認を行う場合、養護教諭をプロジェクトチームにメンバーとして位置づける。

○学校種間の連携

小学校の養護教諭から中学校の生徒指導担当者が専門的指導を受ける（中略）など、必要に応じて助言が行えるコンサルテーション体制をつくっておくと効果的である。

○児童生徒の安全にかかわる問題

学校安全について詳述し、学校保健安全法第26条の児童生徒間の深刻ないじめ、暴力行為への対応にふれ

ています。

学校保健安全法第26条における「加害行為」の解釈について、文部科学省スポーツ・青少年局長通知（20文科ス第522号）には、「加害行為には、いじめや暴力行為など児童生徒同士による傷害行為も含まれるものと考えられる（中略）いじめ等の発生防止については、基本的には生徒指導の観点から取り組まれるべき事項であるが、いじめ等により児童生徒等が身体的危害を受けるような状態にあり、当該児童生徒等の安全を確保する必要があるような場合には、学校安全の観点から本法の対象となる」と記載されています。

このことは、「学校安全」の概念が拡大され、子どもを危険から守られる存在としてだけでなく、危険を及ぼす存在としても捉えられたといえます。そして、全ての教育活動の中で、子どもが被害を受けていないか、加害行為の予兆がないかを学校内外の関係者が密接に連携して、早期発見と早期対応を図ること、危険が未然に防止できなかったときのために、危険等発生時対処要領（第29条）を作成して危機に備えることが大切になっています。

養護教諭は、従来から、子どもの問題となる行為は、生徒指導の問題行為という側面だけでなく、健康相談（活動）や保健指導の中で、心身両面から総合的に捉え、教育活動として実践してきました。しかし、その活動を学校組織の中で十分受け入れない時代もありました。

今、それらを踏まえて、「生徒指導提要」が養護教諭に求めることを正面から受け止め、生徒指導部と効果的な連携を図ることが必要です。本学会は、養護教諭が直面する養成教育や現職研修、複数配置等の環境整備の諸課題に対する受け皿として、他に委ねられない役割が期待されます。

「生徒指導提要」と関連して、『生徒指導の役割連携の推進に向けて』小・中・高等学校編が、平成22・23年に国立教育研究所から発刊され、各学校に配布されました。これらには、生徒指導主事が学校経営に生徒指導をどのように組み込むか、具体的に求められる行動について、図表を取り入れて説明しています。

本書の内容から、保健室経営の主担者である養護教諭が、学校経営の中で、生徒指導主事（担当者）とどのように役割連携を果たしていくか、双方の経営サイクル（PDCA）について、児童生徒等を中心に据えて、具体的に考える必要があります。特に、保健室経営の可視化を図るために、継続的な自・他評価は避けて通れないことではないでしょうか。

会員諸氏におかれましては、それぞれの立場で、この2種類の刊行物を養護教諭、学校保健との関連において確認し活用されますことを願い、ご紹介いたします。



私の県の「ここが特色」⑪

部会組織も複数で 一県立・市立・私立と共に

郡司 久子（神奈川県県立学校保健会養護部会長
県高等学校教科研究会養護部会代表
神奈川県立神奈川工業高等学校）

神奈川県には、横浜市・川崎市・横須賀市・相模原市の4つの政令指定都市があり、人口は約900万人です。

県立高校では単位数を修得する単位制の普通科校・多部制単独校の定時制・自分のペースに合わせて選べるフレキシブルスクール・外国語、体育、自然科学、福祉、芸術等の専門コースがある高校・多様な選択ができる総合学科等々、新しいタイプの高校が作られ子どもたちの選択肢は増えています。さまざまな問題に対処できるよう、県立高校の養護教諭は、専任1名にプラスして通年臨任・10ヶ月と4ヶ月の非常勤・再任用等が配置され、約60%の学校がその対象になっています。

私たちは県立・市立・私立の高校・特別支援学校278校で活動しています。県立学校保健会（全日制141校、定時制20校、通信制2校、中高一貫校2校特別支援学校26校、計191校）と県高等学校教科研究会養護部会（県立高校165校、市立・私立87校）の二つの組織を連動させて予算や事業計画等を作成しています。また、役員会は県立6名市立1名私立2名の9名の役員、理事会は県下10地区の地区代表理事と特別支援学校の理事計11名と共に月1回開催しています。さらに、県学校保健会養護部会にも役員が理事として参加し、小中学校とも連携しています。

各地区会では、理事会報告と情報交換をすると共に地区毎に自分たちで決めたテーマで研究を行っています。県立学校保健会と協働して、講演会と生徒保健活動研究発表会を開催しています。

総会は年3回、会員からの要望を受けテーマを決める講演会と研究協議を行っています。昨年度の研究協議会では「持病とつき合っていく生徒への援助と指導」、「高等学校における健康相談活動の特徴を探る」の研究発表がありました。

また、委員会が5つあり、各地区1名市立1名で構成される「執務検討委員会」。「情報ネットワーク検討委員会」は県のサーバーの中に、各校で共有できるお知らせや保健便り等を厳選して、掲載しています。「定時制・通信制・分校問題検討委員会」、「再編問題検討委員会」は該当の学校が集まり、諸問題の検討や情報交換を行っています。また、自由参加の精神保健研究会「カウンセリングマインド研究会」と「横浜パレントグループワーク」の2つの会が年3回程度事例検討などを行っています。

部会研究誌「葦」には、これらの地区研究発表や各委員会の活動を掲載し、会員全体で成果を共有しています。

これからも諸々の問題を解決していく力を身につけ

ていけるよう、県下の仲間たちと研鑽を積んでいきたいと思えます。

「私の実践と研究」リレー・レポート⑨

継続して繋ぐ、実践研究をめざして

荒井美智子（伊勢市立小俣小学校）

○これまで養護教諭として小中学校に勤務して、新採当時から実践してきたことの一つとして、その時折の子どもたちの健康課題を明らかにし、課題解決に向けた、楽しく学べる保健指導のあり方を考え、授業実践に取り組んできました。そして実践したことをまとめることで、次の実践に繋がられるようになってきました。平成10年から養護教諭が保健の授業を担当する教諭または講師となることができるようになった際は、兼務発令を受けて保健学習にも取り組みました。保健学習を担当し、評価についても関わり、単元目標を各観点に沿って具現化し、それらの観点に基づいて子どもたちの学びを見取っていくことによって、子どもたち一人ひとりを多面的に評価することの大切さを知ることができました。指導と評価は一体化しており、評価することで教師の指導力が問われるものであり、保健指導に取り組むうえでも授業の一つひとつのプロセスについてより深く追求し、授業のあり方を考える機会になりました。

また、特殊教育から特別支援教育に移行された際は、特別支援教育コーディネーターとして校内の支援体制を整備し、学校内外の関係機関との連絡調整、保護者に対する相談窓口、担任への支援、校内委員会の運営や推進など行ってきました。

現在、取り組んでいることは心の健康教育の実践で、子どもの心の安定を図り、子ども相互の交流を深めることを目的に、描画を学級活動の中に取り入れた保健指導です。保健室にくる子どもの中には相手とうまくコミュニケーションが取れずに、すぐ手が出てしまい何度となくトラブルを繰り返す子どもや、自分の思いをうまく表現できず自分の殻に閉じこもってしまう子どもなどがみられます。これらの子どもへの対応は事象が起こってからの対処ではなく、問題が発生する前に教育活動の中で問題の発生を予防し、子どもの成長を援助する心の健康教育が必要です。心の健康教育として、問題予防的・発達促進的な心理的アプローチの一つであり、子どもの遊びの中で身近な行為である描画を取り入れ、この活動の有効性を検討しています。

養護教諭は、その時代の子どもを教育的課題を反映しつつ、新たな役割が提言されてきました。養護教諭として、その新たな求められる役割にトライすることで、養護教諭としての可能性を模索してきました。

これからも養護教諭がさらなる飛躍をしていくには、実践を継続し、実践したことを形にし、実践の有効性を検証して研究に繋げていくことと考えています。

2011年度 研究助成金研究の経過報告

(1) 学校保健活動の重要性を 学校評価に位置付けるための研究

代表者 新開美和子 (広島市立基町高等学校)

この度、学会助成金研究として本研究を採択していただき、誠にありがとうございます。

学校教育法において、各学校が教育活動や学校運営について目標・計画を設定し、評価及びその結果を公表するという学校評価が規定されましたが、学校運営において学校保健活動は重要な活動であるにも関わらず、実際には学校評価の重点目標や評価項目として設定されていない学校が多いのではないかと感じています。そこで、学校保健活動の基盤の一つである保健室経営計画を活用し、その成果と課題を学校評価に位置づけることはできないかと考えています。具体的には、(1) 保健室の運営者である養護教諭の保健室経営計画及び学校保健活動と、学校評価に関する意識や実態の現状を質問紙調査等から明らかにする、(2) 学校経営における学校保健活動や保健室経営と学校評価の関係に関する学校長の意識や実践を、面接調査等から明らかにする、(3) 課題型保健室経営計画の充実と、実践を基盤とした学校保健活動の評価を学校評価へ反映させる、ことに取り組み、養護教諭(保健室経営)の視点から学校評価について考察したいと思います。

会員の皆様のご協力とご支援を今後ともよろしくお願い申し上げます。

(2) 子どもの自尊感情を高める 養護実践の構成に関する研究 ～北海道における小学生の実態を中心に～

代表者 照井 沙彩 (札幌市立八軒西小学校)

この度は、本研究を助成金研究に採択していただき、ありがとうございます。共同研究者10名で試行錯誤しながら申請書を作成したので、大変嬉しく思います。

日本の子どもの自尊感情の低下は、教育の課題として指摘されており、学級担任との関わりや家庭環境・保護者の養育態度との関連から分析した先行研究が多く見られます。しかし、子どもたちの健やかな心身の発達を支える専門職である養護教諭の実践と関連付けた研究はこれまで見られませんでした。

そこで、本研究では、子どもの自尊感情の実態と保健室来室状況や発育及び健康の実態との関連について分析するとともに、子どもの自尊感情を高めるための養護実践の構成要素を検討することを目的としました。

現在は、2ヶ月に1回程度、会議を行い、プレテストで得られた結果をもとに、質問紙の内容について検討を重ねています。調査後は、得られた分析結果から、自尊感情を高めるための養護実践の構成要素について、内容分析の手法を用い、検討していく予定です。

本研究によって、子どもの自尊感情と密接に関連し

た養護実践の構造を明らかにすることにより、効果的な養護実践を可能にし、養護実践力の向上に寄与したいと考えています。

2012年度「研究助成金研究」の募集と 第19回学術集会での「投稿奨励研究」の 推薦について

高橋 香代 (学術担当常任理事)

2012年度研究助成金対象研究の募集を開始します。研究助成金対象研究は、学会共同研究とは異なり、会員が自主的に応募する研究です。学会員の皆様には、ぜひ積極的にご申請をお願いします。

2012年度の研究助成金研究申請の締切は、2011年9月10日です。学会ホームページから申請書をダウンロードして、締切日までに学会事務局まで申請をお願いします。申請された研究は、理事会で選定基準に基づいて審議し、年次総会に提案して承認を受けます。選定作業は、会員資格、研究の目的・独自性、研究方法、助成金の使途など選定基準(2006年度総会承認)に則って行います。採択件数は2題で、研究助成金は1件10万円です。また、研究助成金を受けた研究は、その成果を学術集会及び日本養護教諭教育学会誌に発表することが義務づけられています。

また、第18回学術集会から発足した「投稿奨励研究」の推薦は、第19回学術集会でも実施いたします。年次学術集会で会員が発表した一般演題の中から、学術集会学会長、座長、日本養護教諭教育学会役員によって、投稿奨励研究が推薦されますので、会員の皆様には奮って演題発表をお願いします。

学会誌第15巻第2号投稿原稿の募集

「日本養護教諭教育学会誌」は
年2回発刊になりました

鈴木 裕子 (学会誌編集担当常任理事)

昨年度総会での承認を受け、学会誌は今年度から9月と3月の年2回発刊となりました。現在、第15巻第1号の9月発刊に向けた編集作業が進行中です。初めての夏場の作業に、気持ちも新たに取り組んでいます。

さて編集委員会では引き続き2012年3月発刊の第15巻第2号の投稿論文を募集しています。積極的な投稿をお待ちしています。

○投稿資格：本学会の会員に限ります。

○募集期間：第15巻第2号掲載に向けた投稿は、2011年9月30日(金)までをお願いします。

査読が終了し受理された論文から掲載しますので、早めの投稿をお勧めします。受理までに時間を要する場合には次号以降の掲載となる場合もあります。

○執筆要領等については学会誌第14巻第1号P.139～P.144、または日本養護教諭教育学会ホームページ <http://www.yogokyoyu-kyoiku-gakkai.jp/> をご覧ください。

※原稿の送付および問合せは、右記編集委員会事務局
にお願いします（学会事務局とは異なります）。

<編集委員会事務局>

〒154-8515 東京都世田谷区世田谷4-28-1
国士舘大学文学部 鈴木裕子
TEL 03-5451-8161（研究室直通）
E-mail : suzukiyu@kokushikan.ac.jp

2011年6月17日

会員各位

日本養護教諭教育学会
選挙管理委員会 委員長 神戸 美絵子

日本養護教諭教育学会役員選出のための名簿登録の確認についてのお願い

皆様にはご健勝のことと存じます。

さて、選挙管理委員会ではすでにハーモニー第54号にて役員を選出について告示しましたが、このたびは「選挙有権者名簿」及び「被選挙権者名簿」を公表し、会員の皆様が正規に登録されているかどうかの確認をしたいと思えます。

名簿は所属ブロックごとの五十音順で記載してあります。

つきましては、下記の要領で会員一人一人が名簿を確認し、異議や訂正がある場合には、下記の学会事務局宛に書面（FAX・E-mailを含む）で2011年7月10日（日）必着にて申し出てください。

受理したものについては、「確かに受理した」旨の返信を差し上げますので、申し出たにもかかわらず返信がない場合には、恐れ入りますが再度ご連絡ください。また、同日までに申し出がない場合には、この名簿が認められたものとしします。

- 1 選挙有権者は、2011年4月20日現在で2010年度の年会費を納入済みの会員とする。
ただし、被災した一部地域には学会誌発送を見合わせたため、5月16日までに延長した。
被選挙権者（理事の有資格者）は、2011年3月31日現在、引き続き3年以上会員であったものとする。
名誉会員及び賛助会員・団体会員は、選挙権及び被選挙権ともないものとする。
- 2 会員の所属ブロックは、原則として2011年5月10日現在の学会事務局登録の勤務先または在籍校の所在地とする。または、このいずれでもない場合は自宅所在地とする。
各都道府県の所属ブロックは以下のとおりである。

北海道・東北……………北海道、青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島
関東……………茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨
中部……………新潟、富山、石川、福井、静岡、長野、愛知、岐阜、三重
近畿……………滋賀、京都、大阪、奈良、和歌山、兵庫
中国・四国……………岡山、広島、鳥取、島根、山口、徳島、高知、愛媛、香川
九州……………福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

- 3 異議・訂正例
(1) 氏名、所属ブロックに誤りがある。
(2) 選挙権・被選挙権があるにもかかわらず名簿に氏名が登録されていない。
(3) 選挙権・被選挙権がないにもかかわらず名簿に氏名が登録されている。
- 4 連絡先 〒448-8542 刈谷市井ヶ谷町広沢1
愛知教育大学養護教育講座 後藤研究室
日本養護教諭教育学会事務局内 選挙管理委員会
TEL/FAX : 0566-26-2491 E-mail : JAYTEjimu@yogokyoyu-kyoiku-gakkai.jp

日本養護教諭教育学会「選挙有権者」及び「被選挙権者」の名簿（案）

○所属ブロック（勤務先の所在地。勤務先がない場合は自宅所在地。）ごとの五十音順で示す。
 ○下記の方は選挙有権者（現会員のうちで2010年度会費を4月20日までに納入した人）である。但し、岩手・宮城・福島・茨城・千葉の一部地域の方は学会誌の発送を見合わせていたため、5月16日までに納入した人とした。
 ○氏名の前の※は被選挙権者（2008年度からの現会員）を示す。
 ○氏名の後の数字は会員番号を示す。

<北海道・東北>

※ 赤木光子 86	※ 小菅光恵 637	※ 高田幸子 435	樋口佳奈 1030
浅野真由美 1127	※ 小林央美 154	※ 高橋英実 948	※ 菱沼ゆう 876
阿部正子 1146	小室春菜 1088	※ 高橋晃子 629	福士章子 1033
※ 新井猛浩 228	※ 小山ゆかり 431	高橋富美子 1077	※ 福士典子 630
一條由美 1109	※ 作原ひとみ 785	※ 竹崎登喜江 99	※ 古野桂子 219
※ 井上悦子 231	※ 佐々木綾 890	※ 武田淳子 725	※ 堀籠ちづ子 46
※ 今野洋子 290	※ 佐々木奈緒 749	※ 竹浪優子 686	前田洋子 1139
※ 入駒一美 384	※ 佐々木美枝子 173	※ 竹本礼子 914	※ 松田浄恵 424
※ 岩田礼子 990	※ 笹原和子 674	※ 多田淳子 403	松本宏子 1155
※ 内山陽子 642	※ 佐藤理 619	※ 只野喜代美 40	※ 丸岡里香 706
遠藤茜 1086	※ 佐藤千代子 533	※ 反保侑子 887	宮尾美智子 1090
※ 遠藤巴子 192	※ 佐藤倫子 901	※ 築地優子 769	※ 宮幸子 399
※ 及川千幸 869	※ 佐藤妹佳 618	※ 千田雅子 417	宮島美貴 1110
※ 大久保牧子 393	※ 佐藤玲奈 529	※ 千葉久美子 799	※ 面澤和子 446
太田和江 1069	※ 鹿野裕美 540	※ 津村直子 312	※ 盛昭子 39
※ 大場祐子 873	※ 芝木美沙子 56	※ 照井沙彩 949	※ 森祥子 833
※ 小笹典子 237	※ 柴田周子 904	※ 堂腰律子 852	森山より子 1066
※ 長利牧 954	柴又愛 1089	※ 富田勤 30	※ 門間純子 372
※ 葛西敦子 430	※ 島田和枝 694	※ 内藤裕子 976	※ 山口厚子 601
※ 春日篤美 946	※ 庄子幸恵 572	※ 中下玲子 386	山崎千秋 1128
※ 加藤尚子 259	※ 菅澤麻子 61	※ 中野静香 534	※ 山田玲子 836
※ 川口眞理 918	菅原優子 1067	※ 中野原代 537	※ 横堀良男 892
※ 川崎佳子 825	※ 鈴木晃子 1014	※ 成田みどり 240	※ 吉田瑠美子 131
※ 菅野由紀子 395	※ 住吉美保 934	※ 西村奈緒美 1015	米森敏恵 1154
菊川翔子 1087	瀬戸佐知子 1153	※ 野中早知子 744	※ 渡邊祐子 866
※ 桑野三千代 365	世羅桃子 1130	※ 濱端美奈子 844	

< 関 東 >

青柳千春 1108	※ 小笠原紀代子 9	※ 鈴木仁子 843	※ 橋口いずみ 705
芦川恵美 1099	※ 小川浩子 521	※ 鈴木雅子 483	※ 畑中高子 159
※ 阿部真理子 849	※ 門田美恵子 838	※ 鈴木美智子 195	※ 林修 962
※ 阿萬智恵 385	※ 門山由美子 535	※ 鈴木美代子 581	※ 平岩恭子 774
※ 荒木田美香子 817	※ 金田節子 992	※ 鈴木裕子 117	※ 平川俊功 550
※ 飯塚恵美 927	※ 鎌田尚子 11	善福正夫 1072	廣原紀恵 1105
※ 石井浩二 270	※ 亀崎路子 775	※ 曾根睦子 22	※ 福島きよの 864
※ 石垣久美子 1016	※ 川崎芳枝 442	※ 園田淑子 345	福島静恵 1157
※ 市川真知子 856	木下正江 1064	※ 高田薫 525	※ 福島夕子 784
※ 出井美智子 198	工藤志歩 1131	※ 高田しずか 600	※ 舟島なをみ 975
※ 出原嘉代子 478	※ 久保田美穂 708	高橋紀和子 1111	※ 古屋美雪 486
※ 井手元美奈子 229	※ 郡司久子 468	瀧澤裕子 1075	※ 堀田美枝子 748
伊藤いづみ 1115	※ 小口博子 626	※ 竹田由美子 25	※ 本多英子 488
※ 井上智恵子 595	※ 小瀬古貴子 587	※ 竹鼻ゆかり 634	※ 前田美和子 842
※ 今富久美子 391	※ 小林育枝 193	竜田昭子 1081	松永恵 1043
岩井法子 1106	※ 小林冽子 17	田村千恵子 1082	※ 松野智子 264
※ 岩崎和子 814	※ 齋藤千景 882	※ 千葉かおり 991	※ 丸井淑美 957
※ 植田誠治 124	※ 斉藤ふくみ 43	※ 塚田庸子 339	※ 丸山範子 423
※ 上野純子 125	※ 齋藤真佐乃 786	※ 豊島幸子 337	※ 三浦佐智子 739
※ 上原美子 623	※ 齋藤理砂子 648	※ 留目宏美 938	※ 三木とみ子 235
※ 采女智津江 101	※ 坂田昭恵 20	※ 鳥海洋子 492	※ 道上恵美子 549
※ 浦中淳 7	※ 坂西重子 771	※ 中川優子 31	※ 村木久美江 138
海老原真弓 1125	佐久間浩美 1076	※ 中下富子 682	※ 森田光子 129
※ 江部紀美子 589	※ 櫻田淳 510	※ 中根浩美 291	※ 矢野和佳乃 699
※ 遠藤伸子 262	佐藤百合子 1023	※ 中村朋子 34	※ 山崎隆恵 122
扇景子 1052	※ 猿田和美 484	※ 中村道子 590	山城綾子 1092
※ 大島夏緒里 647	※ 澤田敦子 650	※ 中谷啓子 974	※ 山田澄子 450
※ 大谷尚子 8	※ 澤村文香 1002	成川美和 1100	※ 山田まゆみ 367
※ 大塚典子 118	※ 塩田瑠美 222	※ 西牧真理 254	※ 山中寿江 420
※ 大沼久美子 711	※ 鹿間久美子 653	※ 根本節子 809	横山小百合 1024
※ 大庭玲菜 702	※ 宍戸洲美 984	※ 野田智子 726	※ 吉澤千春 746
※ 大和久清子 824	篠崎優美 1129	※ 野村真理 311	※ 吉武眞佐子 145
※ 岡田加奈子 60	※ 鈴木加代子 611	萩谷香里 1156	脇山美希 1107

<中 部>

※ 相 澤 康 子 1006	※ 笠 井 直 美 646	高 橋 佐 和 子 1104	※ 堀 内 久 美 子 36
※ 秋 山 志 津 子 585	※ 梶 岡 多 恵 子 224	※ 高 橋 澄 子 987	※ 堀 川 敏 子 1017
※ 浅 田 知 恵 子 740	※ 加 藤 沙 織 子 704	※ 田 崎 勝 成 684	※ 増 井 晃 子 1079
※ 天 野 敦 子 1	※ 門 川 由 紀 江 子 933	田 嶋 長 子 1091	※ 増 田 明 美 子 860
※ 天 野 利 香 子 972	※ 鎌 塚 優 子 743	※ 田 邊 恵 子 979	※ 間 瀬 朱 美 子 567
※ 荒 井 美 智 子 1009	※ 亀 山 淳 子 862	※ 田 村 恭 子 878	※ 松 原 紀 子 780
五十 嵐 和 子 1144	※ 河 合 尚 子 323	※ 丁 子 智 恵 子 295	※ 松 原 由 貴 子 1000
※ 五十 嵐 利 恵 子 923	※ 河 合 美 保 子 722	※ 辻 森 美 穂 子 955	※ 真 野 初 美 子 526
※ 五十 嵐 望 咲 子 958	※ 河 田 史 宝 子 281	※ 角 田 智 恵 美 子 851	※ 圓 岡 和 子 子 547
※ 池 田 み ず ず 子 269	※ 神 戸 美 絵 子 13	※ 戸 神 ふ み 子 子 956	※ 丸 山 幸 恵 子 子 821
※ 井 澤 昌 子 子 341	※ 植 田 美 奈 子 子 246	※ 外 山 恵 子 子 181	※ 水 上 洋 子 子 715
※ 石 崎 ト モ イ 子 子 84	※ 北 村 栄 子 子 700	※ 永 石 喜 代 子 子 594	※ 水 上 谷 真 理 子 子 900
※ 石 田 敦 子 子 605	※ 木 下 洋 子 子 473	※ 永 田 智 恵 子 子 768	南 宮 下 川 恵 子 子 1048
※ 石 田 妙 美 子 子 194	※ 黒 宮 雅 和 子 子 1019	※ 中 村 富 美 子 子 688	※ 宮 下 田 利 恵 子 子 1140
※ 石 原 貴 代 子 子 499	強 力 さ と み 子 子 1147	※ 中 畑 直 美 子 子 336	※ 宮 田 幸 江 子 子 776
※ 伊 豆 麻 子 子 889	※ 後 藤 多 知 子 子 926	※ 中 山 由 子 子 1001	※ 村 上 い づ み 子 子 363
※ 伊 丹 元 子 子 554	※ 後 藤 ひ と み 子 子 16	※ 西 田 倫 子 子 781	※ 村 上 真 佐 子 子 172
※ 伊 市 川 恭 平 子 子 1063	※ 小 林 き よ 子 子 713	※ 長 谷 川 由 佳 子 子 1055	※ 村 瀬 久 美 子 子 180
※ 岩 井 真 奈 美 子 子 1120	※ 小 林 壽 子 子 70	※ 長 谷 川 由 紀 子 子 1093	※ 森 井 口 康 代 子 子 1152
※ 植 田 美 奈 子 子 246	※ 小 林 陽 子 子 203	※ 波 多 幸 江 子 子 929	※ 森 千 鶴 子 子 90
※ 上 野 光 博 子 子 1042	※ 駒 田 玉 美 子 子 276	※ 花 井 典 子 子 556	※ 森 奈 緒 美 子 子 661
※ 牛 山 美 奈 子 子 396	※ 近 藤 充 代 子 子 789	※ 濱 田 芳 恵 子 子 558	※ 安 林 恭 子 子 982
※ 遠 藤 さ と え 子 子 644	※ 酒 井 瞳 子 子 1103	※ 林 せ つ 子 子 238	※ 山 田 恭 浩 子 子 1148
※ 大 城 戸 香 織 子 子 568	※ 佐 光 恵 子 子 586	※ 林 典 子 子 433	※ 山 田 小 夜 子 子 652
※ 大 塚 純 子 子 935	※ 佐 藤 勅 子 子 891	※ 原 蓉 子 子 298	※ 山 寺 智 子 子 524
※ 大 野 志 保 子 子 922	※ 佐 藤 麻 耶 子 子 1121	※ 深 見 真 弓 子 子 560	※ 山 本 浩 子 子 402
※ 大 野 泰 子 子 1041	※ 佐 野 悦 子 子 719	※ 福 田 博 美 子 子 326	※ 山 本 美 子 子 603
※ 大 原 榮 子 子 76	※ 沢 田 有 香 子 子 865	※ 藤 井 寿 美 子 子 51	
※ 奥 野 元 子 子 555	※ 沢 田 静 子 子 606	※ 藤 岡 光 子 子 497	
※ 奥 村 陽 子 子 49	※ 島 崎 実 奈 枝 子 子 952	※ 古 田 扶 三 子 子 673	
※ 大 日 方 和 枝 子 子 818	※ 下 村 淳 子 子 132	※ 古 橋 純 子 子 356	

<近 畿>

※ 浅 井 千 恵 子 子 1018	※ 菊 池 美 奈 子 子 832	※ 高 井 聡 美 子 子 520	※ 林 照 子 子 815
※ 井 口 め ぐ み 子 子 418	※ 北 垣 ひ な こ 子 子 1124	※ 高 橋 綾 子 子 1133	※ 播 磨 谷 澄 子 子 329
※ 池 川 典 子 子 964	※ 北 川 末 幾 子 子 1136	※ 多 田 律 子 子 26	※ 平 井 美 幸 子 子 622
※ 石 塚 智 恵 子 子 772	※ 北 口 和 美 子 子 383	※ 地 海 和 美 子 子 968	※ 平 松 和 枝 子 子 248
※ 磯 田 宏 子 子 410	※ 北 野 美 波 子 子 250	※ 津 川 絢 子 子 495	※ 松 永 か お り 子 子 392
※ 市 木 美 知 子 子 553	※ 北 村 米 子 子 717	※ 辻 立 世 子 子 188	※ 松 本 良 枝 子 子 1142
※ 出 井 梨 枝 子 子 444	※ 北 村 安 子 子 1145	※ 徳 山 美 智 子 子 242	※ 宮 本 文 子 子 999
※ 今 井 佳 代 子 子 1004	※ 木 戸 久 美 子 子 116	※ 中 尾 香 織 子 子 322	※ 元 田 綾 子 子 1118
※ 今 村 朱 美 子 子 1046	※ 楠 本 昌 子 子 1101	※ 中 桐 佐 智 子 子 32	※ 森 村 祐 子 子 382
※ 大 川 尚 子 子 481	※ 古 角 好 美 子 子 261	※ 中 島 敦 子 子 381	※ 森 脇 裕 美 子 子 854
※ 大 西 喜 代 子 子 471	※ 小 西 俊 子 子 15	※ 中 村 亜 紀 子 子 996	※ 安 原 仁 美 子 子 1003
※ 大 西 雅 美 子 子 1143	※ 小 西 直 美 子 子 408	※ 中 村 千 景 子 子 989	※ 山 根 明 子 子 728
※ 大 髭 桂 子 子 440	※ 近 藤 文 子 子 18	※ 永 山 ひ と み 子 子 373	※ 山 本 冬 子 子 371
※ 大 平 曜 子 子 610	※ 桜 井 久 恵 子 子 21	※ 西 木 澄 江 子 子 582	※ 山 本 本 菜 里 子 子 945
※ 岡 本 啓 子 子 470	※ 佐 藤 容 子 子 252	※ 西 能 代 子 子 538	※ 吉 田 純 子 子 374
※ 岡 本 陽 子 子 288	※ 鹿 田 紀 子 子 398	※ 西 羽 法 子 子 514	※ 吉 田 夏 子 子 1040
※ 小 原 愛 子 子 614	※ 下 村 雅 昭 子 子 960	※ 丹 羽 ち ゅ う 子 子 171	※ 米 澤 和 代 子 子 1045
※ 加 納 亜 紀 子 子 861	※ 鈴 木 秀 子 子 1119	※ 長 谷 川 中 理 子 子 1149	
※ 川 原 慶 子 子 469	※ 住 吉 由 加 子 子 616	※ 幡 林 嘉 朗 子 子 1049	

<中国・四国>

※ 安 藝 敦 子 730	越 智 ひかる 1150	※ 武 田 和 子 848	※ 松 枝 睦 美 701
※ 阿 部 清 子 207	※ 垣 内 真規子 943	※ 武 本 千 恵 208	※ 松 嶋 紀 子 146
※ 阿 部 康 子 651	※ 笠 井 恵 美 944	※ 田 嶋 八千代 427	※ 松 本 雅 子 998
※ 伊賀上 睦 見 931	※ 檜 地 千恵美 820	※ 橘 晴 子 733	※ 三 浦 恵美子 723
※ 池 永 理恵子 552	※ 梶 谷 さとこ 919	※ 田 村 裕 子 980	※ 溝 上 直 美 751
池 畠 千恵子 1102	※ 梶 原 京 子 394	※ 丹 佳 子 906	淵 上 克 義 1062
※ 池 本 禎 子 107	加 藤 和 代 1084	※ 津 島 ひろ江 108	※ 三 村 由香里 331
※ 石 川 芙加枝 716	鎌 田 雅 史 1061	寺 村 路 代 1038	※ 宮 崎 久美子 697
※ 石 走 知 子 405	※ 上 村 弘 子 859	※ 中 西 美恵子 330	※ 棟 方 百 熊 464
※ 石 原 昌 江 4	※ 川 内 ツルキ 12	※ 中 村 雅 子 937	森 田 陽 子 1096
※ 稲 田 良 子 641	※ 河 本 妙 子 835	※ 中 安 紀美子 286	※ 森 田 理智代 981
※ 井 上 恵 子 419	河 本 肇 1020	※ 難 波 知 子 808	※ 森 眞由美 971
井 上 美 紀 1113	※ 貴 志 知恵子 429	※ 西 岡 かおり 571	※ 門 田 新一郎 745
※ 井 上 睦 美 925	※ 北 川 早百合 731	※ 西 尾 小 和 734	葉 師 神 裕 子 1085
※ 岩 佐 幸 恵 551	栗 本 け い 1095	仁 科 弘 重 1126	※ 柳 谷 貴 子 747
※ 上 田 公 子 924	※ 小 海 節 美 940	野 宗 万 喜 942	矢 野 咲貴子 1141
※ 梅 田 弘 子 380	※ 後 東 美代子 561	※ 野々上 敬 子 983	※ 山 崎 早 苗 245
大 谷 育 美 1036	※ 小 山 和 栄 149	※ 乘 松 恵理子 735	山 崎 やよい 1112
※ 岡 崎 由美子 928	下 川 清 美 1137	林 真 弓 1117	山 村 保 古 1080
岡 田 久 子 1021	※ 新 開 美和子 884	原 田 定 子 1070	※ 横 山 智 子 369
※ 岡 田 真 江 695	※ 鈴 木 薫 349	※ 平 松 恵 子 961	吉 田 有 加 莉 1097
小 川 育 子 1098	千 日 由美子 1116	※ 藤 尾 由 美 840	※ 吉 本 みち子 721
※ 沖 西 紀代子 970	※ 高 橋 香 代 347	※ 藤 澤 伸 子 736	
※ 奥 田 紀久子 409	※ 竹 内 理 恵 530	※ 藤 本 比登美 872	

<九 州>

※ 安 部 朱 實 88	河 塚 楊 子 1132	※ 高 倉 実 239	※ 廣 田 幸 恵 828
※ 有 村 信 子 199	喜久川 美 沢 1094	※ 高 野 さやか 677	※ 本 田 優 子 310
飯 嶋 圭 1122	※ 木 村 由紀子 950	※ 田 代 明 子 414	※ 松 葉 佳 子 671
※ 伊志嶺 孝 子 932	※ 熊 谷 直 美 777	※ 辻 清 子 436	※ 松 藤 恵 美 359
※ 一期崎 直 美 986	※ 香 田 由 美 350	辻 珠 美 1123	※ 松 本 敬 子 38
※ 長 志のぶ 308	※ 古 賀 由紀子 83	※ 筒 井 康 子 850	※ 馬 淵 恵美子 360
※ 伊 藤 亜 紀 482	小 柳 康 子 1022	※ 角 掛 奈緒美 879	※ 三 並 めぐる 1005
※ 後 迫 貴利子 827	※ 近 藤 恵 640	※ 時 吉 佐和子 896	※ 森 川 美奈子 1007
※ 内 田 郁 美 810	※ 佐 藤 亜 古 687	中 田 雅 子 1073	※ 山 梨 八重子 1008
※ 江 寄 和 子 485	※ 柴 崎 卓巳子 266	※ 西 川 優 子 899	※ 山 脇 眞 弓 346
※ 大 家 さとみ 639	白 石 弥 生 1059	野 平 友 江 1134	※ 吉 田 あや子 200
※ 沖 田 直 子 566	※ 住 田 実 267	※ 橋 本 節 子 608	※ 脇 由 里 子 660
鹿 嶋 幹 子 1135	※ 瀬 口 久美代 598	※ 林 田 千賀子 565	※ 和 気 則 江 358

理事会等の活動報告

2010年7月以降の理事会等の活動報告は次の通りです。(氏名は50音順)

☆理事会

1. 2010年度 第1回

日時：2010年7月31日(土) 10:00~16:30
場所：名古屋都市センター(名古屋市)
出席者：後藤、小林、鈴木薫、鈴木裕子、高橋、徳山、永田、山崎、吉田(欠席：下村、三木)、楠本学会長

内容：各業務の確認、2010年度会計中間報告、学会活動委員会の活動報告、20周年事業について、第18回学術集会の企画と運営、2010年度総会準備、選挙管理委員会についてなど

2. 2010年度 第2回

日時：2010年10月8日(金) 15:00~17:00
場所：大阪府教育会館たかつガーデン(大阪)
出席者：理事11名、今野監事、楠本学会長
内容：2010年度総会の運営及び議案確認、2010年度研究助成金対象研究の採択、プレコンGRESの進行確認等

3. 2010年度 第3回

日時：2010年1月8日(土) 10:00~12:00
場所：名古屋市公会堂(名古屋市)
出席者：理事11名
内容：2010年度総会及び第18回学術集会の総括、2010年度事業の経過報告、投稿奨励研究の選定等

☆常任理事会

1. 2011年度 第1回

日時：2011年4月24日(日) 10:00~12:00
場所：名古屋市公会堂(名古屋市)
出席者：後藤理事長、常任理事：鈴木裕子、三木、山崎、吉田(高橋常任理事代理)
内容：2010年度事業の総括と会計報告、第19回学術集会進捗状況、2011年度事業計画、学会活動委員会の活動の充実等

☆編集委員会

1. 2010年度 第1回

日時：2010年8月21日(日) 11:00~13:30
場所：国士舘大学(東京)
出席者：斎藤真、鈴木薫、鈴木裕、道上、山崎(欠席：大川、大塚、鎌田、竹田、斎藤ふ、中川、松田)オブザーバー：後藤
内容：2010年度編集委員会業務と役割分担、学会誌年2回発刊に向けての体制について、学会誌編集費会計、ハーモニー第53号の企画等

2. 2010年度 第2回

日時：2010年10月8日(金) 17:30~19:30
場所：大阪府教育会館たかつガーデン(大阪)
出席者：編集委員8名(欠席：大塚、斎藤真、

竹田、中川、松田)オブザーバー：後藤
内容：日本養護教諭教育学会誌第14巻第1号の企画および編集日程、ハーモニー第54号の企画等

3. 2010年度 第3回

日時：2011年1月23日(日) 10:00~17:00
場所：キャンパス・イノベーションセンター(東京)
出席者：編集委員10名(欠席：竹田、中川)オブザーバー：後藤
内容：日本養護教諭教育学会誌第14巻第1号の掲載原稿及び進行状況等の確認、ハーモニー第55号の準備状況等

◇この他、2~3月に編集・校正作業のための小委員会を3回開催。

事務局より

下村淳子(事務局長)

☆住所変更等の届けはお早めに!

新年度を迎え、就職や転勤等によって勤務先住所が変更になった方がいらっしゃると思います。先にお送りした学会誌も「宛先不明」で返送されるケースがありました。勤務先や自宅住所の変更、発送先の変更、改姓などがありましたら、早めに事務局にご連絡下さい。連絡は学会誌巻末の「会員登録」変更届をご利用の上、FAXでお送り下さい。または同様の内容をEメール(JAYTEjimu@yogokyoyu-kyoiku-gakkai.jp)でご連絡下さい。

☆上記HPの「震災を経験した子どもたちにかかわる養護教諭の方々への役立ち情報」について

会員の皆様からお寄せいただいた情報をホームページ上で公開しています。現在も募集していますので、参考となる資料やホームページなどがありましたら、事務局までお知らせ下さい。

編集後記

春が過ぎ、夏がすぐそこに近づいてきました。一日一日の積み重ねで今日があることを感じ入っています。みなさんにお会いできる秋も、きっとあつという間にやってくることでしょう。東北の会員のみなさんにもお目にかかれそうですように!お待ちしております。(K)

